



● 南国ダーバン、日蘭戦に熱狂

6月19日の対オランダ戦。森さんは、ダーバンへ行き、自分の目で・耳で、体で、アフリカを感じた。6月20日時点での、現地からのメッセージです。

さすがに優勝候補オランダには歯が立たなかった。守備陣は持ち前の堅さで守りきったが、



少年の応援も、むなく...

運悪く、敵のエースのシュートが川島の手からはじかれ、悔しい決勝点。ロスタイム直前、岡崎の惜しいシュートにスタジアムがどよめいた。

ただ、日本代表も、現地サポーターも、落胆の表情は見せていない。すでに織り込み済み。勝負は再び、高地ルステンブルクで戦うデンマーク戦にかかると。

インド洋に面し、青い海と白砂の浜辺が広がる港町ダーバン。サトウキビ畑の労働者として強制移住させられたインド人の子孫が多く、気候も温



まるでオランダのホームスタジアムのように

見事なほど橙色に染まってしまい、日本は、この試合でも完全away状態だ。2階スタジアムの一部に、数十の日の丸を掲げ、オランダ勢に負けじと熱い声援を送った。

● 煌びやかなスタジアム

ダーバンに限らず、W杯の会場はどこも、煌びやかである。原色一辺倒カラフルな情景だ。勝敗だけに固執してはいない。世界中の人々がそこに集い、つかの間の交流を楽しむ。とりわけ11日の開会式会場は、素晴らしかった。世界中の視点がこの一点に集まる。その注目度は五輪の比ではない。極東の日本から来た、

● 面食らうサポーター

カメルーン戦の勝利で、日本からのサポーターが急増したようだ。危険なヨハネスブルグを避け、



空港から直接、ダーバンへ直行した人たちも目立った。そんな彼らが一堂に面食らったことがある。こんな贅沢なW杯は後にも先にもお目にかかれ



ところ、戸惑いや悩みもある。6月に入って、南アのホテルはすべて2倍以上にアップ



世界の若者と一緒に、ご機嫌な森さん

ルセンチンからスター選手活躍を目の当たりにして大感激。

ブ、中には3、4倍に値上げたところも。チケット入手で喜んだものの、滞在が長引いて宿泊費に悲鳴を上げるサポーターも多い。

しかも、南アの物価は、W杯開幕前からじりじり上がりはじめ、東京と同じ水準。生活必需品の値上がりに、黒人層から不満の声も聞かれる。

横浜から来た若者(25歳)は「マリファナ吸ってからついていた男を町で見かけた。怖いっすに、日本並みの物価高。滞在費が5万円以上はかかりそうで、親から借金しました。それでも、やっぱりW杯は最高」とか。

もりてつし / 1943年長崎市長生まれ。稲城市在住。作家。日本エッセイスト・クラブ会員。朝日カルチャーセンター講師(エッセイ講座=立川)。元朝日新聞社社会部記者。市井の人々の人生を描くエッセイ、国内外ポ・ノンフィクション作品を発表。現役時代は事件記者。定年後、25ヶ国を1年間旅した紀行が『団塊諸君 一人旅はいいぞ!』(朝日新聞社)。イラク、アフガン、パレスチナ、シルクロード、アフリカも取材。最新刊『男は運路に立ち向かえ』(長崎出版)発売中。http://www.mori-tetsu.com